

国語教育相談室

小学校

no.

84

光村図書

特集

まど・みちおの世界

わたし
ことは

白鳥入芦花
那須正幹

デジタル

文章を色分けする

国語
指導

学習の主人公は「子ども」

書写

苦手意識を
払拭する工夫

2015年4月で、
復刊
10周年!

児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

「飛ぶ教室」は、石森延男、今江祥智、尾崎秀樹、河合隼雄、栗原一登、阪田寛夫各氏が編集委員となり、子どもの本と子どもの文化を掘り下げる総合誌をめざして、1981年に発刊した児童文学雑誌です。作家の個性があふれる童話や短編、絵本のかき下ろし作品のほか、作家や作品の魅力に迫るインタビューや座談会など、読みごたえある企画満載です。



- ◎ 各号の詳しい内容は光村図書ウェブサイトをご覧ください。
- ◎ 「現在品切れ中」の表示以外の号はご購入いただけます。お近くの書店などで申し込みください。

第40号(2015冬)
特集「もっと童話をたのしもう!」

定価: 本体1,000円+税 / ISBN 978-4-89528-846-0



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.163 2015(平成27)年1月30日発行

発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所=協和オフセット印刷株式会社 デザイン=mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

白鳥入芦花 (白鳥芦花に入る)

小学校の頃はとんと本を読まなかったが、中学に入ってから本を読み始めた。中でも『次郎物語』は、中学高校時代何度も読み返し、主人公の本田次郎にいたく共感したものである。表題の「白鳥入芦花」は、中学に入学した次郎が、兄に連れられて、朝倉という教師の家に遊びに出かけたとき見た扁額^{へんがく}の文字である。次郎が意味を問うと、先生はこんな話をしてくれた。「芦^{あし}の花は真っ白に群れて咲く。その中に真っ白な白鳥が入り込むと、姿は見えなくなる。しかし、芦の花はゆらゆら揺れる」

手元に本がないので、記憶だけを頼りに書いているのだが、朝倉先生はそんな説明をしたはずだ。次郎は、先生の言う芦花の光景を心の中に描いてみる。じつは兄の恭一たちは、先生の家で「白鳥会」というサークルを作り、自由な論壇を楽しんでいたのだ。やがて次郎も白鳥会に入り、学校を追われた先生を

慕って上京するのだが、これは後の話。

愛読者であった私も、「白鳥入芦花」という言葉がいたく気に入って、自分も芦花の中の白鳥のようになりたいと思った。誰にも姿を見せず、それでも芦花を揺らせるような、そんな人間になりたい。

私は現在児童向けの物語を生業にしている。一般文学と違い、子どもは作者の名前には、あまり関心がない。子ども読者にとっては、作品そのものが面白く感動的であれば満足で、誰が書いたかということは、どうでも良いわけだ。

できれば私も白鳥になって、大勢の子どもたちの心を揺らめかすような作品を書きたいと念じている。しかし、まだまだその境地になれず、真っ黒な鳥がやたら騒がしく芦花をかき回しているような作品ばかり書いているのだ。



1942年、広島県生まれ。1978年に第1作が発表された「ズッコケ三人組」シリーズは全50巻を数え、2005年からは40代になった三人組の姿を描いた「ズッコケ中年三人組」シリーズが始まる。主な作品に、『さぎ師たちの空』（ポプラ社）、『絵で読む広島原爆』（福音館書店）、『海賊モーガン』シリーズ、『お江戸の百太郎』シリーズ、『コロッケ探偵団』シリーズなどがある。

CONTENTS

わたしとことば 白鳥入芦花（白鳥芦花に入る） 那須正幹

特集 02 まど・みちおの世界

まど・みちお 作品の魅力

まどさんのうた 大好き 中川李枝子

向日性の極致 山下明生

まどさんの二つの詩 石津ちひろ

微細なものへの優しい眼差し 野上 暁

子どもと共に在る 藤森裕治

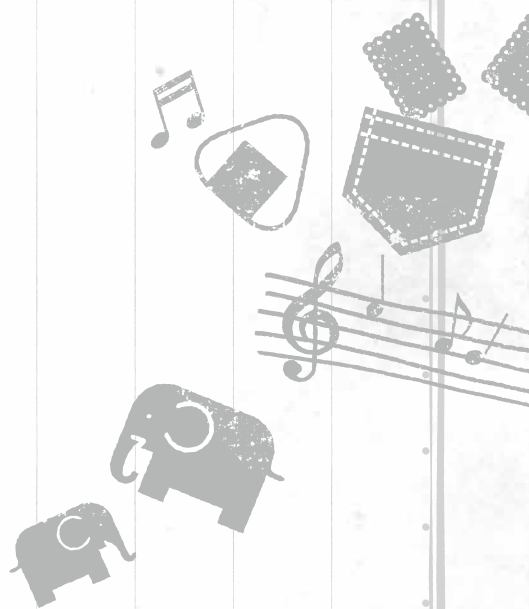
授業レポート まどさんの詩に会う 青山由紀
まどさんと教科書

デジタル教科書を
使いこなそう 2 14 文章を色分けして、構成を捉える 佐藤幸江

子どもたちを
「書写好き」に 4 18 苦手意識を払拭する工夫 藤井浩治

なるほど国語指導 2 22 学習の主人公は「子ども」 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

26 平成27年度版 学習指導書のご案内



特集

まど・みちおの世界

人間をテーマにした詩から、小さな生き物を見つめた詩、ほこりやおならのことを書いた詩まで、たくさん作品を遺してくれたまど・みちおさん。
今回は、昨年二月に百四歳で亡くなった まど・みちおさんの特集です。
さまざまな方たちから寄せられたエッセイや、まどさんの詩と出会った子どもたちの授業リポートをご紹介します。



まど・みちお
作品の魅力

まどさんのうた 大好き

作家 中川李枝子

作家になるつもりはなくて日本一の保育士を目標とした私は、小さい保育園で十七年間、二歳から就学までの幼児と苦楽を共にした。

幼児は遊びながら育つ。遊びこそ心身の成長の糧、一分一秒おろそかにできない。想像力豊かな子は遊び上手、自分を存分に開放し心身のバランスも安定している。そこで保育とは子どもの持つ生まれた想像力を育てることだと気付いた。絵本、お話、歌が大いに影響する。良質のものを選ぼう！

歌といえば、まど・みちお。私は秘かにまどさんを「子どもの歌の王様」と決めた。まどさんの楽譜は全部持っているつもりだが、特に必需品として愛用したのは二冊。いずれもフレールベル館出版である。「ぞうさん まど・みちお 子どもの歌 100曲集」
「ごはんを もぐもぐ おかあさんと子どものための歌曲集」(磯部俊作曲)
まどさんは自分の作品について前書きで

「ツマラヌ童謡ではない」とはつきり述べている。「ツマラヌ童謡とは曲ではなくモンクの方のことで」と断った上で「ツマラヌ童謡とは、そのモンクが精神の白熱化による所産とはいえない。つまり詩ではない童謡のことです」。

幼児の生活に歌は欠かせない。保育園も幼稚園も歌で始まり歌で終わる。ことばより先に歌を覚えるのは子守唄から始まるのだろうか。ことばのころよさ、リズム感が子どもの全身を引きつける。その線の上に「まど・みちお」大王がいる。

まどさんのモンクは子どもに面白く、はつきりとよくわかる。極上の哲学的ユーモアが二歳の子に通じるのだ。まだ舌の回らない子が「さっきのお手紙 ご用事なかに」とか「なんだか少し淋しい尻尾も一本つけました」とくすくす笑いながら歌う。まどさんに「はしるの だいすき」(佐藤眞作曲)を保育園で毎日元気いっぱい歌ってますと報告したら「土・草・風・足・胸・顔、順々に並べただけで、曲がいいのです」

と謙遜された。

モンクが良いから作曲家も白熱化して素晴らしい曲をつけたと確信する。

私は今も、昔子どもたちと一緒に歌ったまどさんの歌を口ずさんでは名モンクに感心してしまう。

まどさんのうた 思いつくままに。

ぞうさん

おさるが ふねを かきました

やぎさん ゆうびん

はしるの だいすき

ごはんを もぐもぐ

まだまだ たくさんあります。



なかがわ・りえこ

1935年、北海道生まれ。保育士として働きながら執筆活動に入る。「いやいやえん」「子犬のロクがやってきた」「ぐりとぐら」「そらいろのたね」「ももいろのきりん」など著書多数。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

向日性の極致

児童文学作家 山下明生

まどさんの詩集をひもといてみると、草原に寝ころがって、日向ぼっこしているような、幸せな気持ちになります。

うさぎの子どもはうさぎの子どもで、

うさぎに うまれて／うれしい うさ

ぎ／はねても／はねても／はねても／

はねても／うさぎで なくなりやしな

い (うさぎ)

と、うさぎに生まれた喜びをうたいます。

ぞうの子どもはぞうの子どもで、

ぞうさん／ぞうさん

おはなが ながいのね

そうよ／かあさんも ながいのよ (ぞうさん)

と、生きる幸せを短い言葉に凝縮します。

慈愛の目で命を見つめるまどさんの姿勢は、初期の作品から徹底しています。私はまどさんの、次の作品が大好きです。

あるいはあるいても日向だったの。

海鳴がしているようだったの。

道の両側から、
山のてっぺんから、
日の丸が見送っていたの。

お船が待ってるような気がして、
足がひとりで急いじやったの。

ホホケタンポポは指の先から、

フルン フルン 飛んでいって

もうお母さまには茎だけしかあげられ

ない

と思ったの。

いそいそいそいそいそいそ日向だったの。

——ね、お母さま。

僕、あの時生まれて来たんでしよう。

(生まれて来た時)

この詩が発表された一九三七年は、日本が日中戦争という長い戦争に突入する暗い時代でした。そうした世相をつきぬけて、

まどさんの目は、

風も虹もやまびこも／まだ赤んぼう
だったころの／宇宙のふるさとの

(ぬけた歯)

どこかに向けられているのです。

そんな宇宙のどこから、まどさんはお日さまのあたる道があるいてあるいて、百歳まで生きてきました。まさに向日性の極致です。

偶然ですが、一九三七年は、私の生まれた年でもあります。ですから私は、この詩を自分自身への応援歌にしています。心が萎えそうになったとき、繰り返し口ずさんでいるのです。



やました・はるお

1937年、東京都生まれ。児童文学作家。主な作品に『海のしろうま』『まつげの海のひこうせん』『カモメの家』、翻訳に『バーバリヤ』シリーズなどがある。光村図書小学校『国語』3年上巻に、『海をかつとばせ』が掲載されている。

まどさんの二つの詩

詩人・絵本作家

石津ちひろ

私の仕事部屋の本棚には、『まど・みち

お全詩集』の編集者として知られる)伊藤

英治さんが送ってくださった、まど・みち

おさんの写真が置いてあります。写真の中

のまどさんは、いつも穏やかな口調で私に

問いかけてきます。

——自然や物が語りかけてくれるものに、きちんと耳を傾けているか？ 私たちが

「宇宙の意志」に生かされた存在であるこ

とを、忘れてはいないか？ 言葉が自由に

遊びたがっているのを、妨げてはいない

か？……と。

こんなふうに私にとっては、まさしく指標ともいべき存在である、まどさんの作品の中から、二つの詩を選んでご紹介してみたいと思います。

まずは、一つ目の詩から。

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

ゆきを みあげて たつ ぼくに

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

とつぜん ぼくは のぼってく

せかいじゅうから ただ ひとり
そらへ そらへと のぼってく
ふと きがつくと ゆきが ふる
ゆきを みあげて たつ ぼくに
ふるふる ふるふる ゆきが ふる

(ゆきがふる)

この詩の中で「ぼく」は、自然をまるごと体で受け止め、奥深いところで、宇宙と一体になっています。そんな「ぼく」が感じる、高揚感と孤独感に、魂が揺さぶられてしまうのです。さらには、読み手である私もまた、「ぼく」とともに雪の中を、空の高みへと登っていくことができるのです。続いて二つ目の詩。

みかん みかん

まっかだね

やまで ゆうやけ

みてたでしよ

みかん みかん

つめたいね
ばんには おほしさま
みてたでしよ

(みかん)

この自然への愛情に満ちあふれた、簡潔な詩を声に出して読んでみると、私の心はいつしか故郷である愛媛の、みかん山へと誘われていきます。

目の前には、美しい夕焼け空や輝く星空が広がり、それと同時に、みかんの甘酸っぱい味や香りに五感が満たされ、私はこの上なく、しあわせな気持ちになるのです。



いしづ・ちひろ

1953年、愛媛県生まれ。フランス滞在を経て、詩人、絵本作家、翻訳家への道を歩む。主な作品に『あしたのあたしはあたらしいあたし』『ほんとうのじぶん』『おじいちゃんとのやくそく』『わたしのひみつ』などがある。

微細なもののへの優しい眼差し

作家・評論家 野上 暁

ぼくの中のもどさんは、あの飄々とした風貌とともに、『まど・みちお全詩集』の中から、いまでもしなやかに語りかけ続けてくれる。

まどさんの詩は、『まめつぶうた』のまえがきで自身でも書かれているように、動物や虫や花や石ころ、月や星や太陽や、海や山や風や雨まで、森羅万象をうたいあげ、不思議な遠近感で世界を燦然と輝かせてみせる。幼児でもわかる優しい言葉で、命の素晴らしさをうたう。『まめつぶうた』は、これまで何度読み返しただろうか。読むたびに、清々しい気分浸れて気持ちが安らぐのだ。

全体が五つに分かれているが、最初の「とおい ところー生きもののうた」の第一作「やさしい けしき」は、この詩集のテーマとともに、まどさんの自然観や生命観を象徴しているようで味わい深い。

「あちらには 山／こちらには 海／川が 山のたよりをあつめては／マラソンで／海へ おくりとどけ」と始まり、「そし

て なんおくまん年／とうとうある日 生まれでてきました／かずかぎりない 生きものたちが／笑いさざめきながら：／この やさしいけしきを／もつと やさしくするために」と結ばれる。

川がマラソンで山の便りを届けるという表現は、長い道のりをくねくねとたどるイメージが視覚化されていてうきうきする。「もうひとつの目ーにんげんのうた」の最初の作品も示唆的だ。

「はたらきとおして／こんなに小さくなった せつけんが／あたしの目には どうしても／せつけんの／おばあさんのようには 見えない／せつけんの／あかちゃんのように 見えて／かわいい」と始まり、ばかな目だなあと思うけど、そう思えるのはもう一つの素晴らしい目が見張つていてくれるからだと続く。

川も石礫も、まどさんによって擬人化され命を吹き込まれる。シニカルな中にユーモアがある。人生がある。

「さんばつは きらいーけしつぶうた」



のがみ・あきら

1943年、長野県生まれ。作家、評論家。日本ペンクラブ常任理事。「子どもの本」委員会担当。著書に『子ども学 その源流へ』『越境する児童文学』などがある。

では、「ケムシ」という題の詩が、「さんばつは きらい」。世界一短い詩と言えそうだが、この一言に含意がある。「カマキリ」の「おもちゃの カンガル」も、ゼンマイ仕掛けで跳ねるブリキのおもちゃを思わせる。「カニ」の「なきながらに／わらいながらに」や、「ノミ」の「あらわれる／ゆくえふめいになるために」も、小さな生きものを見る観察眼の鋭さと、眼差しの優しさがユーモラスだ。「まめつぶうた」から「けしつぶうた」まで、縦横無尽に微細な世界を映し出し、そこから宇宙にまで飛翔する。人や物や自然や宇宙に対する、限らない慈しみが心を打つのだ。

子どもと共に在る

信州大学 教授 藤森裕治

ぼくが ここに まど・みちお

ぼくが ここに いるとき

ほかの どんなものも

ぼくに かさなつて

ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば

そのゾウだけ

マメが いるならば

その一つぶの マメだけ

しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは

こんなに だいに

まもられているのだ

どんなものが どんなどころに

いるときにも

その「いること」こそが

なにもに まして

すばらしいこと として

のちきゅう」が持つ摂理そのものだということも教えてくれています。すべてのいのちがかげがえのない存在として共に在ることこそ、あらゆるいとなみには必要なのだと教えてくれています。

学校という世界で「だいに まもられている」のは子どもたちだけではありません。教師も、同僚や管理職から「だいに」されていなければなりません。学校全体が「ちきゅう」なのです。

校長、教師、職員、保護者、そして子どもたちが共に「いること」。これこそが、最もすばらしい教育環境なのです。



ふじもり・ゆうじ

1960年、長野県生まれ。信州大学教育学部教授。教育学博士。専門は国語科教育学（授業研究）、日本民俗学。著書に『国語科授業研究の深層』『死と豊穡の民俗文化』などがある。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

まどさんの詩に出会う

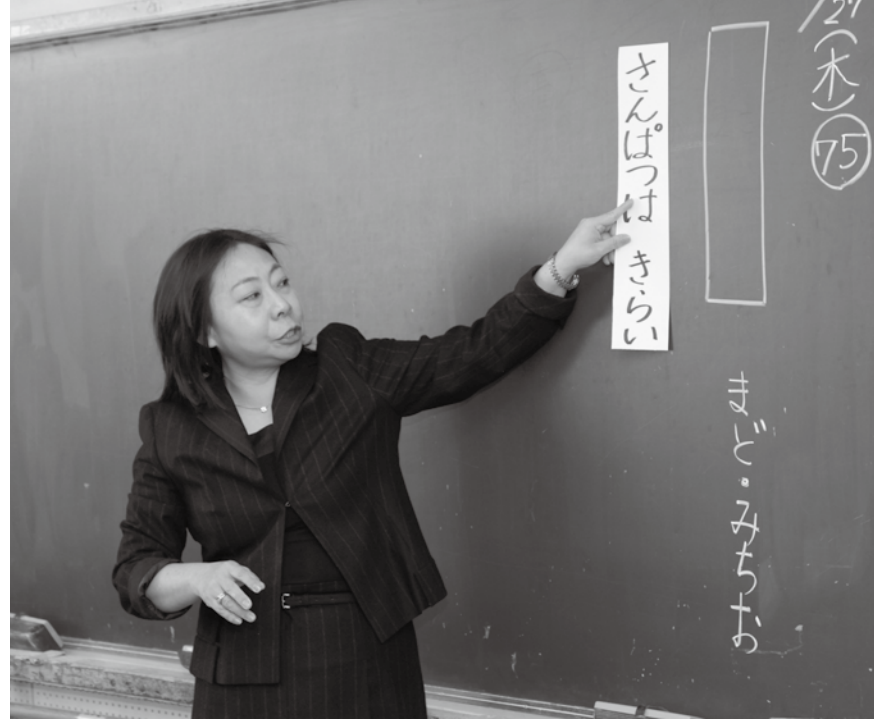
筑波大学附属小学校

青山由紀先生
× 四年生（三十九名）

まど・みちおさんの詩に出会った子どもたちは、どんなことを感じ、どんな発見をするのでしょうか。

青山由紀先生による四年生の詩の授業の時間を紹介します。

撮影：鈴木俊介



1「これって、詩なの？」

「今日は、詩の勉強をしようと思います。詩は詩なんだけれど……。青山先生はそう切り出しながら、黒板に紙を貼り出した。

さんぱつは きれい

「これだけ？」「詩の題名？」「続きはあるの？」とざわつく子どもたちを前に、先生は「題名じゃないよ。題名は別にあるの。これが全部」と答える。そうして、貼り出した紙の右側に四角い枠を書き、その下に「まど・みちお」と、作者の名前を書き入れた。

「これは、まど・みちおさんの一行詩。俳句より短いね。題名と合わせて楽しむ詩ですよ。『さんぱつ』という言葉から、こ



▲身振りを交えながら、自分が考えた生き物を発表する。

ケムシ

まど・みちお

さんぱつは きれい

「へえ、そうか」「なるほどね」という子どもたちの声を受けて、「みんな、なるほどと思ったでしょう。題名と合わせて楽しむ詩だって言ったのは、そういう意味ですよ」と先生。そして、「これも、まど・みちおさんの詩です」と言いながら、違う紙を貼り出す。

うえを

したへの
おおさわぎ

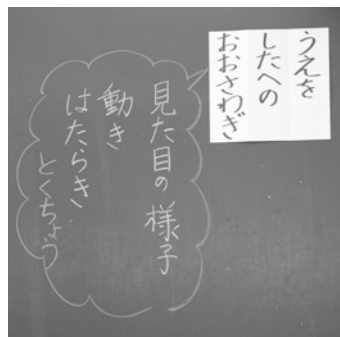
この詩の題名は何だろう。「あり」「山登り」「おみこし」と次々に発言する子ども

たちに先生が出したヒントは「野菜の名前」。そして、四角い枠に題名を書き入れた。

もやし

まど・みちお

うえを
したへの
おおさわぎ



「さっきの『ケムシ』も『もやし』も、詩の中に題名の言葉は入っていないけれど、題名を聞いたとき、なるほどなってしまうでしょう。どうしてかな」と言いながら、先生は黒板に書き出した（右写真参照）。

「ねっ。見た目の様子とか、動きとか、はたらきとか、本当に特徴をうまく捉えている。題名と合わせて楽しむ詩だと言った意味が分かったでしょう。そう言うのと、先生はさらに別の詩を紹介する。「分かった」「きつと、こんな題名だよ」と、前よりも元気よく全員の手が挙がった。

2「まどさんって挑戦しよう」

「じゃあ、今度はみんなに詩を作ってもらいます。まどさんみたいに短い詩、題名

を聞いたら、あつ、そうかと思う詩を四行以内で作ってみよう」と投げかけながら、先生は黒板に題名の例を並べた。

- ・シマウマ
- ・いびき
- ・けしゴム
- ・ミミズ
- ・ノミ

「グループごとに、この中から一つ題名を選んでね」。先生が言い終わるのを待ちきれないように、子どもたちは、グループでの話し合いを始めた。



◀五つの中のどの題名を選ぶか話し合う。



3 まどさんって、さすがだね

まどさんの詩が貼り出されるたびに、子どもたちから歓声がわく。「まどさんって、頭がよすぎる」「頭がいいんじゃないかって、



▲グループで考えた詩を画用紙に書く。

子どもたちが書いた詩

ミミズ
こわい こわい
都会の地面は
足だらけ

いびき
おおきく
ちいさく
よなかの
がっき

シマウマ
昔のテレビが
走っている

ミミズ
ようふくは ちきゅうです
オーバーは うちゅうです
—どちらも
—まいきりですが

いびき
ねじを まく
ねじを まく
ゆめが とぎれないように

シマウマ
手製の
おりに
はいっている

まどさんの詩

「何にする?」「やっぱりシマウマじゃない」という題名の相談もあれば、一度考えた詩を「もっと短く削ろうよ」と話し合っているグループもある。

十五分後、グループごとの発表へと授業は進んだ。画用紙に書いた短い詩を、最初は題名を隠して発表し、聞いたみんなが題名を当て合う。正解が出たら、題名を入れる

頭が柔らかいんだよ」「想像力が豊かなんだ」。

自分たちも「見た目の様子」「動き」「はたらき」といった特徴を捉えて、短い詩を作った経験の後だけに、「まどさんって、さすがだね」という思いが自然と生まれてくる。

そんな子どもたちの様子を見ながら、授業の終わりに、先生は一枚の紙を黒板に貼り出し、みんなにコピーを配った。

紙にあるのは、遠くから見たら二重丸にしか見えない、円の形に並んだ文字だ(上写真参照)。

「これも、まどさんの詩です。こんな詩も書いていたんだね。先生がそう伝えると、「ええっ、これも詩なの」「どこから読むのかな」と言いながら、みんなは真剣にそれに見入っている。今度はこんな詩に挑戦するぞと言いたげなまなざしだった。

■青山先生が授業で使った詩

「ケムシ」「もやし」
「はがき」「シマウマ」
「いびき」「けしゴム」
「ミミズ」「ノミ」
「わまわし まわるわ」

▼自分たちが作った詩を、グループ全員で読む。



て、自分たちが作った詩をもう一度読む。

一つのグループの発表が終わると、先生は、「今の題名は『ミミズ』だったね。じゃあ、これを見て。まどさんが書いた『ミミズ』よ」と、まどさんの詩を貼り出す。次に別のグループが発表すると、やはり同じ題名のまどさんの詩を貼り出した。

授業を終えて 青山先生のお話

まどさんの詩を通して、対象の特徴を捉え、短い言葉でそれを表すおもしろさを知ることが、今回の授業のねらいでした。

題名と合わせて「なるほど」と思うことが大事なので、子どもたちには、「なぜなぜやクイズの詩じゃないよ」と伝えました。

読んだり聞いたりするだけでなく、自分たちで作って、それをまどさんの詩と比べてみることで、「まどさんって、すごいね」という実感につながった気がします。



あおやま・ゆき

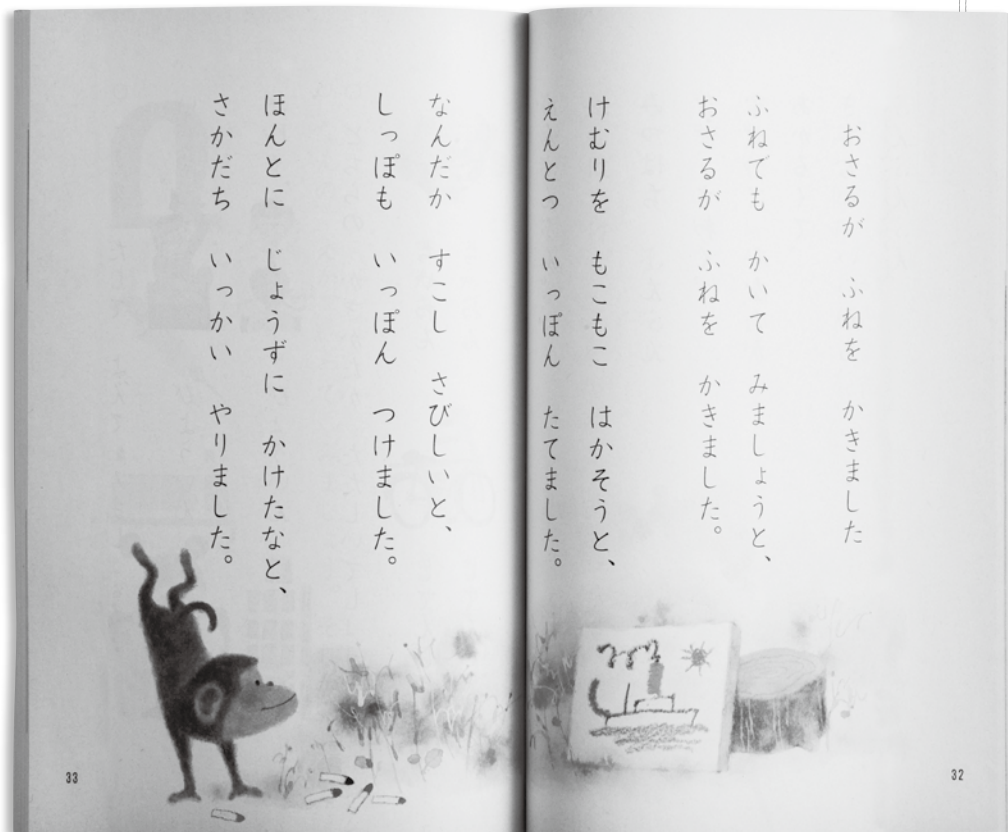
東京都生まれ。全国国語授業研究会常任理事。使える授業ベーシック研究会常任理事。著書に『話すことが好きになる子どもを育てる』『古典が好きになる——まんがで見る青山由紀の授業アイデア10』などがある。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

まどさんと教科書

小学校『国語』教科書にも、まど・みちおさんの作品が数多く掲載されてきました。現在使われている教科書はもちろん、今の大人が子どもだった頃の教科書にも、まどさんの作品がありました。

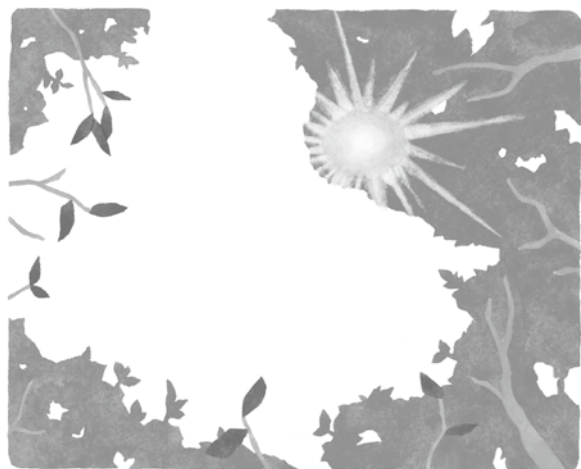
■教科書に掲載されたまど・みちおさんの作品

- ・「犬があるく」(二年下) 昭和46年～51年
- ・「ああ、どこから」(三年上) 昭和46年～51年
- ・「おさるが ふねを かきました」(一年上) 昭和52年～60年／平成23年～26年(四年下) 昭和58年～60年
- ・「ケムシ」「いびき」「ヒョウタン」「えんとつ」
- ・「きりかぶの赤ちゃん」(一年下) 平成4年～11年
- ・「くまさん」(二年上) 平成4年～16年
- ・「朝が来ると」(三年上) 平成4年～7年
- ・「ともだち」(二年上) 平成14年～22年
- ・「アサガオ」(四年上) 平成14年～16年
- ・「キリン」(三年上) 平成17年～22年
- ・「はしる しるしる」(三年下) 平成23年～現在
- ・「せんねん まんねん」(六年) 平成23年～現在



▲「おさるが ふねを かきました」(1年上)は、昭和52年から60年まで掲載され、平成23年に再登場した。上の表紙は、昭和52年度版の教科書。

小学校『国語』教科書に、「かざぐるま」「ともだち」「たんぽぽ」などの名前が付いたのは、昭和五十五年からです。五十八年からは、教科書の名前にちなんだ扉の詩が登場するようになりました。一年から三年までの扉の詩は、まどさんの作品です。



国語 三下 あおぞら
空がまぶしい、
このわたしの上に。
あそこの牛の上に。
あの山の上で生きている
一本松の上に。
みんなおんなじに
青く青くすんで……

◀『国語』3年下「あおぞら」

扉の詩に寄せて

まど・みちお

私たちはずいぶん空を汚しています。まだ、まだ青空を失ってはいません。ただその青空を仰ぎ見ることは忘れがちになっています。

青空は今でも、その永遠を思わせるような青さで、そして宇宙の意志を思わせるようなまぶしさで、はるばると拡がっていています。この地球上のどんな生き物の頭上にも平等に、塵ほどにも分け隔てなく。

たぶんそれは、言い聞かせつづけていくのでしょう。「お前たちはみんな兄弟なのだよ。」と。それに気付くもしないで、他の生き物たちへの横暴はむろんのこと、自分たち同士でさえ憎み合い争い合いつづけているこの私たち人間へも。かぎらない辛抱強さとやさしさで。

(学習指導書三下より)

文章を色分けして、構成を捉える

第一回で紹介した、挿絵を拡大提示する手立てにはチャレンジしていただけたでしょうか。今回は、国語の授業でよく見られる、「文章に線を引いて色分けしながら読む」という手立てを取り上げたいと思います。

1 文章を色分けしながら読む

文章に線を引き、色分けしながら読む——デジタル教科書を使わずとも、黒板や模造紙などを使って、すでに実践されている先生は多いと思います。

デジタル教科書を活用している教師を対象とした意識調査の結果(※)では、中堅以上の教師がより効果を実感しており、よく活用する機能として「線を引く」ことを最も多く挙げています。「線を引く」という機能は、それまでの自分の授業スタイルを変えずに取り入れることができるため、そのことが活用効果の実感へつながったものと思われます。

今回は、デジタル教科書を使って、文章に線を引きながら読むという学習活動を取り入れた単元「説明のしかたを考え

よう」(四年下「アップとルーズで伝える」)の事例をご紹介します。

2 単元の指導目標

◎目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。(読む(1イ))

○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。(伝国イ(ク))

3 単元の指導計画 (全八時間)

▼第一時

教科書の写真を見て思ったことを話し合い、学習計画を立てる。

4 活用のポイント

■読み取らせたいこと

本教材の筆者は、写真と文章を対応させて「アップ」と「ルーズ」の特徴について説明しながら、「テレビでも新聞でも、受け手が知りたいことや送り手が伝えたいことは何かを考えて、伝え方を使い分けている」ということを述べています。

第一段落では、一枚目の写真(教科書P30)に写っている物事が客観的に述べられ、最後に「会場全体が、静かに、こうふんをおさえて、開始を待ち受けている感じが伝わります。」と結んでいます。続く第二段落の最後の一文、「少しくつむいて、目がボールに向けられているのが分かります。」には、二枚目の写真(P31)についての細かい描写が見られます。そして、第三段落では、「初めの画面のように、**広いはんい**をうつすととり方を『ルーズ』といいます。次の画面のように、**ある部分**を大きくうつすととり方を『アップ』といいます。」と説明しています。これらを踏まえると、「アップ」と「ルーズ」を対比させ、それぞれについて書かれている部分を写真と対応させて確かめ

ながら読んでいくことが、文章の内容や説明のしかたの工夫を読み取ることにつながるかと考えられます。

■写真と文章を対応させて読む (第二・三時)

本時では、子どもたちに、第一～三段落中の、「アップ」の定義が書かれている部分には赤い線を、「ルーズ」の定義が書かれている部分には青い線を引かせるようにしました。「アップ」と「ルーズ」を対比させながら、それぞれの定義を読み取らせたいと考えたためです。

ただ、第三段落(図1)にある「広いはんい」「ある部分」という抽象的な言葉が示すものを具体的にイメージすることができなければ、言葉や文章の理解が曖昧になってしまいます。そこで、第一段落の「会場全体」「コート全体」「観客席」という言葉がそれぞれ、一枚目の写真に写っているどの部分を指すのかを考えるよう、子どもたちに投げかけました。同様に、第二段落では、「コートの中央に立つ選手」「ホイッスルと同時にボールをける選手」という言葉と、写真に写っている選手を結び付けて考えさせました。これによって、子どもたちは、言葉の意味や筆者の伝えたいことをより正確に理

ここで活用!



東京都生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。横浜市内の公立小学校教諭、主幹教諭を経て、現職。専門分野は、教育工学(授業設計、情報教育)、教科教育法。共著書に『タブレット端末で表現する協働的な学び』(フォーラムA)など。

▼第二・三時

写真と文章を関係づけて、「アップ」「ルーズ」の定義について考えながら、第一～三段落を読む。

▼第四・五時

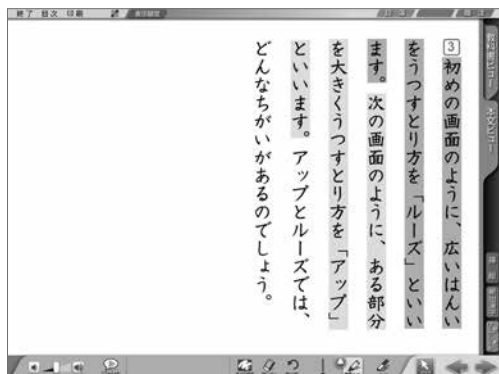
写真と文章を関係づけて、対比の関係を捉えながら、第四～六段落を読む。

▼第六時

第七・八段落を読み、筆者の伝えたいことを捉える。

▼第七・八時

各段落に小見出しを付け、文章の構成を図にまとめる。



▲図1 第3段落の文章を表示し、線を引いて色分けした画面(「国語デジタル教科書」本文ビュー)。

解できたように思います。

このように、写真と文章を対応させる、つまり、写真と文章を行き来しながら読むとき、写真と文章を同時に一つの画面上に映すことができるデジタル教科書が力を発揮します。

■まずは写真だけを見る(第四・五時)

実は、第二・三時では、文章を詳しく読んでいく前に、教科書の写真だけを見て分かることを出し合うようにしました。本時でも、子どもたちに視覚的な理解を促すために、第二・三時と同じように第四・五段落を読み進めることにしました。「アップ」の写真(P32)を見て分か

ることについて、子どもたちからは次のような発言が出されました。

「これは、ゴールをした選手だと思えます。とっても喜んで、走り回っている感じがします」

「わたしも、そう思います。『アップ』だと、喜んでる様子が分かります」

その後、教師が「どうして喜んでいると分かるのでしょうか」と問うと、子どもたちは、

「口を大きく開けて、ワーって叫んで走っているからです」

「袖のところがひらひらしているから、すごく喜んで、速く走っているのだと思います」

などと、デジタル教科書の画面に映した写真に印を付けながら、気づいたことを次々に発言していききました。

そこで、教師は、「では、文章には、どのように書かれているか読んでみましょう」と発問し、子どもたちそれぞれに、自分の教科書に線を引きながら読むよう指示しました。

子どもたちは、自分の教科書の「アップ」で分かる部分には赤、「ルーズ」で分かる部分には青の線を引きながら読んでいきました。その後、それぞれの考えをデジタル教科書の画面上に書き込みな

がら、全体で共有していききました。

先ほど、「アップ」の写真を見て、「袖のところがひらひらしている」という

発言が出ましたが、それと対応した第四段落の文章では「ユニホームは風を

らみ」と表現されていることに

気づいた子どもたちは、「はらむ」という言葉の意味やイメー

ジをつかむことができました。

また、「ルーズ」の写真（P

33）について書かれた第五段落の文章では、「選手たち

「喜び合う」という言葉に着目し、複数形が使われていること、誰かと誰かが互いに何かをする意味をもつ「合う」とい

う表現が使われていることに気づく姿が見られました。

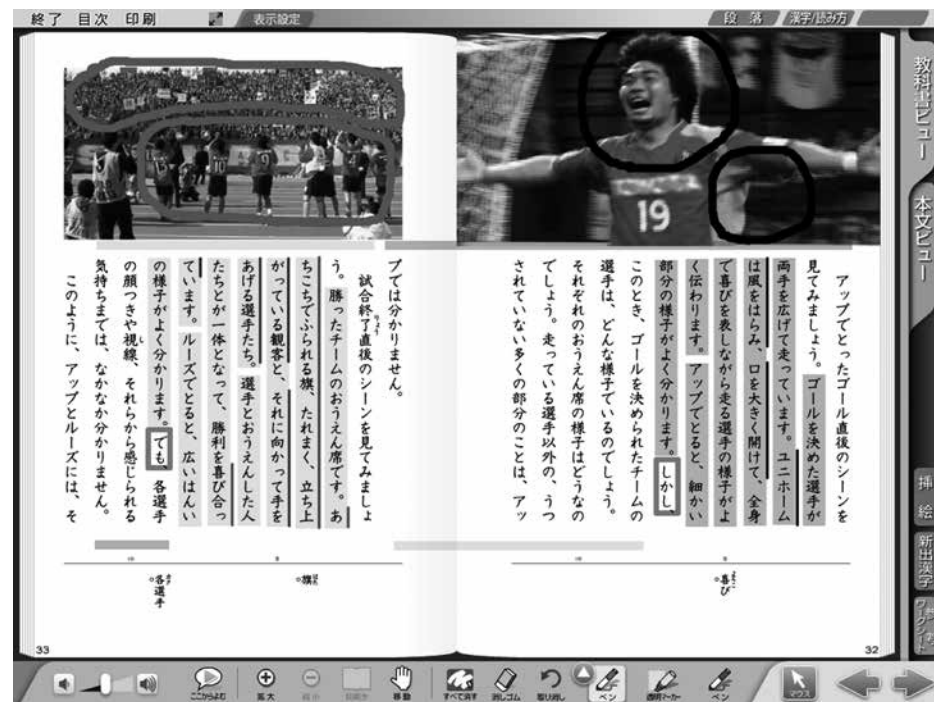
このように、初めに、写真だけを見て分かる情報を押さえたうえで、写真と文章を対応させて読み進めたことで、筆者が選んだ言葉・表現の意味や意図に目を向けることができたようでした。

■考えを全体で共有する（第四・五時）

デジタル教科書の画面に、教科書P32・33の見開き（第四・五段落）全体を表示しながら、子どもたちの考えを書き込んでいくうちに、赤い線も青い線も引かれていない部分があることに気づく子どもが出てきました（右ページ図2）。

ここは、「アップ」で分らないことが「アップ」の特徴として、「ルーズ」で分らないことが「ルーズ」の特徴として書かれている部分です。本教材の筆者の説明のしかたの工夫を知るうえで、重要な部分でもあります。

そこで、下の写真のように、板書で表を使って整理し、「アップ」の短所と「ルーズ」の長所、「ルーズ」の短所と「アップ」の長所を線で結びました。これにより、子どもたちは、両者が表裏の関係にあることを視覚的に理解することができたようでした。さらに、第四・五段落と



▶図2 教科書P32・33の見開きに書き込みをした画面（「国語デジタル教科書」教科書ビュー）。

もに、長所と短所が逆接の接続語でつながれていることを、口々に発言する様子が見られました。

本教材は、「アップ」と「ルーズ」の特徴を伝えるために、段落内でそれぞれの長所と短所を対比的に書き、さらに、段落相互の関係も対比的に書かれています。色分けしながら文章を読み、デジタ

5 実践から分かること

本単元では、色を分けながら文章に線を引き、それを全体で共有したり、文章と写真を対応させて読んだりしました。これにより、子どもたちは、自らの気づきをもとに、中心となる語・文を的確に捉え、文と文との対比、段落と段落との対比に目を向けていきました。そして、文章の構成や筆者の説明のしかたの工夫をしっかりと理解することができたようでした。

デジタル教科書を使って、画面上に線を引いて全体で考えを共有したり、写真を拡大して提示したりすることで、一人の気づきがみんなの気づきとなり、学びが深まり、広がりました。

他学年、他教材でも、ぜひこの手立てを活用していただけたらと思います。これまでの授業スタイルを変えることなく取り入れることができるはずです。

4 苦手意識を払拭する工夫

広島県尾道市立向東小学校教頭 藤井浩治



広島県生まれ。2008年度まで広島県尾道市立土堂小学校に勤務。陰山英男校長在籍の3年間、教務主任として土堂改革に取り組み、数々の成果を上げる。光村図書 小学校・中学校「書写」教科書編集委員を務める。

小学校は、子どもたちが書写と出会う大切な時期です。今回は、特に左利きの子どもへの指導に着目しながら、子どもたちに、書写への苦手意識をもたせないような支援のあり方について、ご提案したいと思います。

1 左利きの子どもへの指導

(1) 左利きの特徴

近年、子どもの個性を尊重することを大切にし、左利きを右利きに矯正しようとする家庭が少なくなったためか、左利きの子どもが増えたように感じています。

野球やサッカーのように、スポーツでは、左利きが武器になることがあるでしょう。しかし、文字を書く場合、左利きにはいくつかの弱点があり、左利きの子どもたちが書写に苦手意識をもってしまうことがあります。

① 姿勢が崩れやすく、字形を整えにくい

通常、漢字や平仮名の横画は、左から右に書きます。左利きの人が文字を書く場合、自分の手が、書き終わった線を次々と隠していくことになるので、左利きの子どもたちは、自分の書いた文字を見ようと、右側から文字をのぞきこむようにして書くことになります。そのため、書くときの姿勢が悪くなってしまいう傾向にあります。同時に、自分の書く文字が見えにくいため、当然、字形を整えることが難しくなります。

② 筆圧を加減しづらい

右利きの子どもは筆記具を少し右に倒して引くように運筆します。いっぽう、

左利きの子どもは、少し左に倒して書くため、筆記具の先に向かって押すように線を引くことになります。ですから、鉛筆などの先端が硬い筆記具の場合、書いているときに必要以上に筆圧が強くなり、文字が太く濃くなることがあります。また、芯が折れやすかったり、紙を突き破ってしまったりすることもあります。

さらに、こうしたことを防ぐために、筆圧を弱めて書くようとして、横画の終筆を止めずに払うような書き方をしている例もよく見られます。止めがはっきりしないために文字が乱雑に見えたり、筆圧が弱いために薄くて読みにくい文字になってしまったりするのです。

(2) 右手で書くことの指導と配慮

① 子ども自身の納得が大切

冒頭で挙げたように、スポーツの世界では、左利きがむしろ有利に働くこともあります。また、箸でご飯を食べる、はさみを持つ、コンピュータのキーボードを打つなど、書くこと以外のほとんどの場面では、左利きで困ることはありません。

しかし、これまで述べてきたように、筆記具や書字動作は、基本的に右利きにとって勝手がよいようにできており、左利きは、文字を書くうえで難点が多くあります。

そこで、まず、「書くときにだけ、左利きには弱点がある」ということを、子どもや保護者に丁寧に説明します。そのうえで、子ども自身が納得し、書くときには右手を使うことに挑戦する意欲があるようなら、右手で書くことを指導していきます。この際、あくまでも、子どもと保護者の意思を尊重し、本人が納得して取り組めるように配慮することが重要です。

② 初めて筆記具を持つときがチャンス

筆記具を右手で持たせる指導は、もちろん、子どもたちが筆記具を初めて持つときに行うのが最も効果的です。左手で

持つことが定着してしまつてからでは指導が困難となり、子ども本人への負担も大きくなってしまいます。ただ、多くの子どもたちは、小学校入学以前から、鉛筆を使い始めますから、初めて使うときから右手で持つ指導を行うためには、幼稚園・保育所との連携、家庭教育への働きかけが必要となってきます。

すなわち、多くの左利きの子どもたちは、小学校に入学する頃には、左手で鉛筆を持つことに慣れてしまっているのです。そうした子どもたちに、右手で持たせるよう指導するには、前述のとおり、彼ら自身や保護者の納得が必要ですから、その点は留意しましょう。

毛筆については、多くの子どもたちが小学校三年で初めて持つことになります。ですから、左利きの子どもに右手を使うよう勧めるには、この毛筆入門期の指導が最重要となります。

まずは、左手を使って毛筆で書くことの難しさを子どもに説明したうえで、「小筆や鉛筆は左手を使つたままでよいので、大きな文字は右手を使つて書いてみよう」と、優しく声をかけてみてください。

この時期は、利き手に関係なく、全ての子どもたちが、持ち慣れない毛筆で、たどたどしく書くところからスタートし

ます。左利きの子どもたちにとって、「自分だけが大変だ」という意識が少ない時期です。この初めての出会いを、大切に丁寧に経験させたいものです。

(3) 左利きの子どもへの配慮

毛筆についても、左手を使うことが定着しており、右手を使って書くことが困難な子どもたちに書写指導を行う場合には、次のようなことに配慮しましょう。

① 用具を左右逆に配置させる

通常、机の上に用具を並べるときには、半紙を中心にして、右側に筆と硯を、左側に教科書を配置します。しかし、左利きの子どもにとっては、右側に教科書を、左の内側に硯、外側に筆を配置するほうが書きやすくなります。

② 穂先の向きを意識させる

右手では、次ページのAのように、始筆の穂先の向きを正しく四十五度の角度にして書くことができます。しかし、左手ではそれが難しく、始筆の角度が、Bのようにマイナス四十五度(百三十五度)の向きになりがちです。左利きの子どもにとって、始筆の穂先の向きを正しく四十五度に向けることは困難を伴うものなのです。努力して書いたとしても、Cのように、九十度に向けてしまう場合が

2 文字を 形よく見せる工夫

左利きかどうかにかかわらず、自分の文字に自信がもてない子どもの苦手意識を軽減するためには、授業の充実は言うまでもなく、教師の側で、子どもたちの文字が少しでも整って見えるような工夫をすることが大切です。いくつかのアイデアをご紹介します。

(1) まとめ書きの用紙を工夫する

授業の最後に書く、まとめ書きでは、子ども自身が「書けるようになった」と実感できることを大切にしたいものです。そのために、用紙を工夫してみてもよいでしょう。少し高級な和紙、色画用紙、マーブリングした紙、色紙、板、紙皿など、いつもの半紙とは違う用紙に書くことで、子どもの文字が引き立って見えるようになります。

(2) 印を押す

まとめ書きに印を押すことで、子どもたちに、書家になったような気分を味わわせるのも一つの工夫です。

彫刻刀を使って、消しゴムなどに名前

多く見られます。

そこで、始筆の穂先の向きをより意識させるため、穂先マークの付いた「かご字」の練習用紙を準備します。学習指導書の付録CD-ROMには、図1のような「かご字」の練習用紙が収録されています。これらを活用するとよいでしょう。

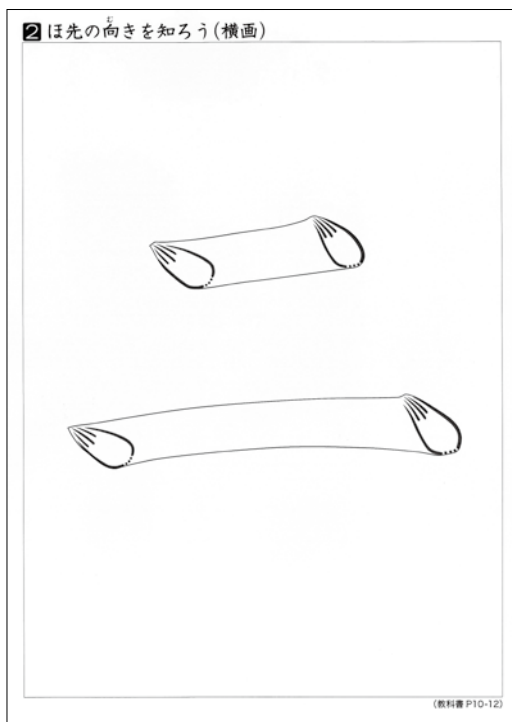
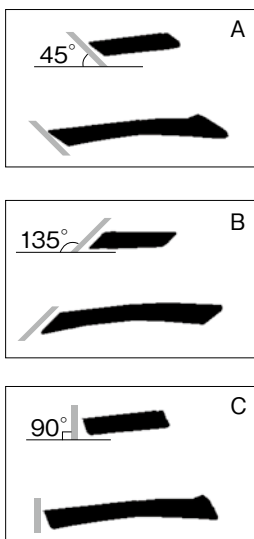


図1：「かご字」の練習用紙の例

④ 右上がりを意識させる

漢字は、横画を少し右上がりに書くと、文字が整って見えます。しかし、左手で書く場合、左から右上へと押し出すように力を入れて線を引くことになるので、横画を右上がりに書くことは難しいといえます。

横画を右上がりにすることを意識させるときにも、練習用紙が活用できます。図2のように、右上がりの補助線を入れた練習用紙を作成してみましょう。この補助線に沿って書く練習をすることで、

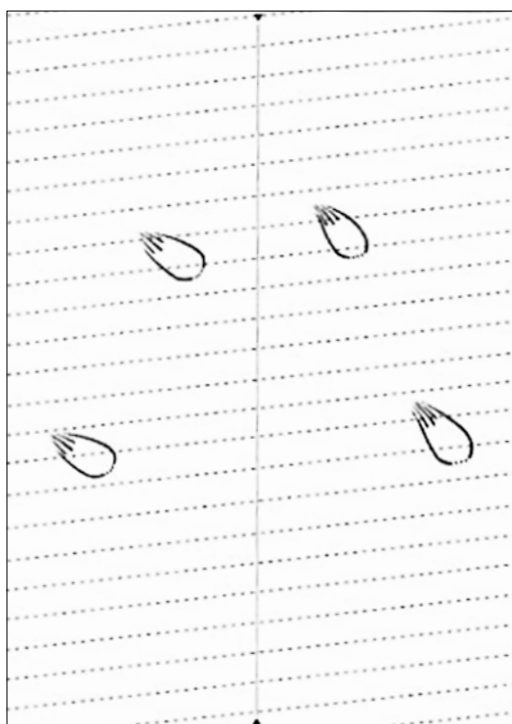


図2：補助線入りの練習用紙の例

の一文字を彫った印を子どもたちに作らせて、教室に常備します。図画工作の時間に作らせるのもよいでしょう。半紙に朱の印が入ると、子どもたちの文字がより際立って見えます。

(3) 絵の具で書く

通常の毛筆では、墨で文字を書きますが、絵の具を使って色の付いた文字を書かせることも工夫の一つといえます。色が付いているだけで、墨の文字とは違った見栄えになります。用紙の工夫と組み合わせてみましょう。

(4) 掲示のしかたを工夫する

掲示のしかたについても工夫ができます。書写掲示用のシートを使う、色や模様が付いた紙を台紙にする、半分に折った厚紙の左右に文字を貼ってミニ屏風を作る、額に入れるなど、掲示のしかたを変えただけで、文字の見え方が変わってきます。

(5) 名前の教材文字を与える

小筆で書いた名前が形よく書けていると、まとめ書き全体の印象もよくなります。子どもたち全員分の、名前の教材文字を準備するといった工夫も考えられま

少し右上がりの整った文字を書く感覚を養うことができます。

(4) 心がけたいこと

左利きの子どもたちは、文字を書くことへの苦手意識をもつことが少なくありません。なぜ書字が難しいのか、どうすればそれを克服できるのか——教師として、分析や工夫を怠らないことが、子どもたちを「書写好き」にすることにつながるものと考えます。

す。

必ずしも教師が手書きで作らなくても、コンピュータのワープロソフトを使い、筆文字・教科書体などのフォントで名前を入力し、印刷すれば、簡単に作ることができます。ラミネート加工を施して、子どもたち一人一人に配布するといでしょう。

3 おわりに

今回は、左利きの子どもたちへの指導と配慮を中心に、子どもの苦手意識を和らげるような指導のあり方や工夫についてご提案しました。子どもの書いた文字を、より形よく整って見せる工夫については、全ての授業というよりは、時に応じて行うのがよいと思います。

目的は、子どもたちの、書写の時間への意欲を高めることです。笑顔があふれ、わくわくする授業を、ともにつくっていきましょう。

こしみず・かおり
 広島県生まれ。玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。



なるほど国語指導

妖精コッシーが教えます 2

学習の主人公は「子ども」

作・画/あべかよこ 監修/興水かおり





学びの主体は子ども。課題解決に向けて、言葉を根拠に自分の考えをもつ意欲を育てましょう。
新たな発想や独創的な創造力は、「主体的な学びの土壌」が育みます。(コッシー)

学習指導書のご案内

国語

学習指導書
総説編

1～6年 全1冊

本体5,800円＋税



教科書の編集方針や構造を解説し、その全体像や特色から活用のしかたが分かるように編集しています。

DVD▶全教材の漢字に振り仮名を付したデータ、2年から4年までの「読むこと」教材本文を分かち書きにしたデータを収録しています。

学習指導書

1～6年 各学年2分冊

本体各学年25,000円＋税



各単元の指導計画例、計画例に沿った指導展開例、指導に役立つ資料を中心に構成しています。

CD▶「話すこと・聞くこと」教材に対応した音声資料に加えて、新たに「読むこと」「伝統的な言語文化」に関わる教材の音読・朗読を収録しています。

学習指導書
別冊(朱書編)

1～4年 上・下巻

本体各巻3,000円＋税

5～6年 各1冊

本体各5,500円＋税

教科書の紙面をそのまま活用しました。板書例や発問例を具体的に示しながら、視覚的にも分かりやすく編集しています。

授業に役立つ
ワークシート集

1～6年 各1冊

本体各3,200円＋税



「学習指導書」で示した指導展開例に即したワークシート集です。授業の中で有効に活用でき、児童が主体的に、かつ楽しみながら取り組めるよう工夫しています。

CD▶本編のワークシートをPDF化して収録しています。

指導事例集
27版対応実践記録

1～6年 各1冊

本体各5,000円＋税

平成27年度版の教科書教材を、それぞれの地域・学校・学級の個性に応じて授業化し、記録した指導書です。実際の授業の臨場感を大切に編集しています。

教科書をより効果的に活用できるよう、さまざまな指導書をご用意しました。先生方の指導をサポートします。

「話すこと・
聞くこと」の
授業をつくる

(監修：藤森裕治・邑上裕子)

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

音声言語指導の基礎・基本を踏まえ、学級の状況やねらいに応じた授業づくりの方法を学年別に提案します。授業開きに役立つコミュニケーション活動のバリエーションなど、多彩なアイデアを収録しています。

「書くこと」の
授業をつくる

(監修：松山美重子・佐渡島紗織)

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

教科書の「書くこと」教材を分析し、学級の状況に合わせて再構成する授業のつくり方を提案しています。教科書で扱われている内容を、「思考」の観点から捉え直すトレーニングシートを掲載しています。

「読むこと」の
授業をつくる

文学的な文章編

(監修：高木まさき)

1～6年 全1冊

本体3,500円＋税

教科書教材との関連を積極的に図った、多様な「読むこと」の指導の提案を掲載しています。文学的な文章の指導を観点別に整理し、解説しています。

「読むこと」の
授業をつくる

説明的な文章編

(監修：高木まさき)

1～6年 全1冊

本体3,500円＋税

教科書教材との関連を積極的に図った、多様な「読むこと」の指導の提案を掲載しています。説明的な文章の指導を観点別に整理し、解説しています。

言語指導の方法
確かな定着と活用
のために

(監修：森山卓郎・森篤嗣)

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

「理論編」では、「国語の特質に関する事項」を項目別に分かりやすく解説し、「指導編」では、言語要素ごとに、定着を図るためのワークシートとその活用方法を提案しています。

書写

学習指導書

1～6年 各1冊

1・2年

本体各4,000円＋税

3～6年

本体各5,000円＋税



▶朱書編

教科書と同じ体裁の「朱書編」を新設し、授業の流れがひと目で分かる、簡潔な展開例を付しています。

▶本編

「総説編」「研究編」で構成し、年間指導計画資料・評価規準を収録。また、授業展開に即して、指導や評価のポイントを丁寧に示しています。

▶別冊資料

全学年に、教科書に準拠した硬筆ワークシートを付し、3年以上の全ての毛筆教材に原寸大資料を付しています。

DVD▶姿勢・執筆、筆使いなどの基礎・基本に加え、教科書に準拠した動画を収めています。

書写指導の方法

1～6年 全1冊

本体2,800円＋税

書写の普遍的学習内容を、項目ごとに整理しています。書写要素別に、書き方のポイントや指導法を紹介し、書写の普遍的学習内容を段階的・系統的に指導できるようになっています。

書写の
アイデア集

1～6年 全1冊

本体3,500円＋税

「書写学習をもっと楽しく」を合い言葉に、子どもたちがわくわくするような実践のアイデアを集めています。授業の幅が広がる1冊です。

漢字指導の方法
確かな定着と活用
のために

(監修：阿辻哲次・棚橋尚子)

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

「理論編」では、漢字指導の基本的な考え方を解説。「実践編」では、漢字指導の基礎となるものを「形・音・義(意味)」の観点から選定し、その指導方法を提案しています。

語彙に着目した
授業をつくる

(監修：甲斐睦朗、編：松川利広)

1～6年 全1冊

本体8,000円＋税



「教材編」では、教科書の「読むこと」教材を分析し、語彙に着目した指導事例を掲載。「生活・学習編」では、年間を通した語彙指導や他教科との連携などを提案。「語彙表編」では、CD-ROMを活用した授業展開を提案しています。

CD▶教科書にある全自立語を五十音順に整理するとともに、全ての語の提出箇所が分かる表を収録しています。

情報・メディア
に着目した授業
をつくる

(監修：中川一史)

1～6年 全1冊

本体3,500円＋税

言葉や文章などの「言語メディア」と、図表・写真などの「映像メディア」を結び付けて、情報の読み取りや、効果的に表現する力を育てる授業を解説しています。

音読・朗読の
指導伝統的な言語文化と
詩・物語

(監修：田中洋一・吉永幸司)

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

音読・朗読指導のポイントや、その意義を示した解説文、楽しんで取り組める授業展開例や音読・朗読に関する活動のアイデアを多数掲載しています。

単元づくりに役立つ
「言語活動」
アイデア集

1～6年 全1冊

本体4,000円＋税

全領域、全学年の言語活動を網羅した「言語活動の百科事典」ともいえるアイデア集です。

2015, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版はホームページよりダウンロードできます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

小学校
指導者用

平成27年度版小学校教科書準拠



CoNETS 版
デジタル教科書

小学校
学習者用

「国語デジタル教科書」

光村「国語デジタル教科書」1～6年

DVD版

各72,000円＋税

ダウンロード版

各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版

各21,000円＋税

ダウンロード版

各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版

各72,000円＋税

ダウンロード版

各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版

60,000円＋税

ダウンロード版

20,000円＋税



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

ご好評をいただいている指導者用と共に、
平成27年度版として現在開発中!!

商品の情報につきましてはホームページにて
随時公開予定です。

DVD版

使用期間は、平成27年度版教科書の
使用期間内です。

ダウンロード版

1年単位でのご使用も可能となりました。
使用期間は、左記期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。



CoNETS

光村図書は、
CoNETSに参画しています。
www.conets.jp

光村図書出版株式会社
TEL: 03-3493-5741 (デジタル教材お客様窓口)
FAX: 03-6721-6884
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

広報部便り

今回の特集「まど・みちおの世界」、お楽しみいただけたでしょうか。

いずれも高名でお忙しくされている方々が、「まど・みちおさんの特集なら」と快く執筆をお引き受けくださいました。また、授業レポートをご紹介した筑波大学附属小学校の青山由紀先生には、紙面で紹介した4年生のクラスの他に、2年生のクラスでも「まどさんの詩に出会う」授業を見せていただきました。

2年生の授業は、先生が板書する「くまさん」の詩を連ごとに視写しながら、子どもたちが感想を言い合うところから始まりました。さらに先生は、「タンポポ」の詩の第一連、「……／でも どうぶつたちは／タンポポの ことを／タンポポとはいいません／めいめい こう よんでいま

す」までを板書し、「イヌ・ウシ・ハト・カラス……」と書き出して、「イヌやウシは、タンポポをどうよぶでしょう」と投げかけると、子どもたちからは次々に発言が続きました。

授業の初めに、先生が「まど・みちおさんって、知っている？」と聞いたとき、大勢の子が「知っている」と手を挙げていましたが、1時間の授業を終えて、子どもたちの意識が「知っている人」から「大好きな人」に変わったのが、はっきり見て取れました。

4月からは、新しい教科書の使用が始まります。4月発行予定の「小学校国語教育相談室」（85号）では、新しい教科書のポイントや授業に生かすヒントを特集する予定です。ご期待ください。



宮澤正明 編

光村図書

定価：本体1,800円＋税

360ページ 四六判

ISBN978-4-89528-679-4

板書の文字、
気になったことは
ありませんか？

光村図書の書写ハンドブックの決定版！

- 光村図書「書写」教科書 編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違えやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

好評発売中!

新・字形と筆順